

# 使いやすさ、安全性向上

## DAITO 廃プラ対応焼却炉

カットすることで、安全性も向上した。

【愛知】DAITO(井上滋樹社長、瀬戸市)は3月から廃プラ対応焼却炉「SPZモデル」と「SPZIIモデル」を発売している。

この2機種は、既存のMDZモデル、MDPⅡのフルモデルチェンジと位置付けている。

主な特徴として、燃焼用エアのバルブを見直すことで、最適な燃焼を実現。鋼板や耐火材壁の厚みを増すこと

と、随所に補強鋼材を多用することで、耐久性や強度もアップさせている。また、新型投入扉の採用により、投入扉と本体とのすき間から出る未燃焼ガスを大幅に削減し、温度調節機能標準装備することで、炉内の温度を計測し、バー



SPZモデル(パンフレット)

小型化した新型Wカット集じん室の採用により消煙としんの飛散を従来品と同レベルに削減し、温度調節機能標準装備することで、炉内の温度を計測し、バー

ナートのON-OFFをすることで、温度管理の手間を省く。SPZモデルは、全面開放扉の採用で大きなゴミも楽に投入できるなど、使いやすさの向上も図られている。

両タイプ共に、行政への届け出は不要(条例により一部届出が必要な自治体もあり)でありながら法規制による焼却炉の構造基準に適合しており、万一行政から指導があった場合は、同社が責任を負う「構造基準適合保証」が付いている。(伊藤行理)